

2024（令和6）年7月3日

「福岡県柳川市方言における「行く」を表す動詞に見られる補充法」

発表者：松岡 葵（東京外国語大学大学院総合国際学研究院／日本学術振興会（学振PD））

本発表の目的は、福岡県柳川市方言における「行く」の活用を記述し、補充法が生じていることを示すとともに、それぞれの形態が出現する環境を明らかにすることである。九州方言の一部においては「行く」を表す動詞として *ik* を含む形式（例：*iku*「行く」、*ikan*「行かない」）と *itar* を含む形式（例：*itatte*「行って」）が出現する。鹿児島諸方言を対象とした先行研究は、談話資料のデータを基に、両者がアスペクトの観点で使い分けられる類義語の関係にあると主張する。一方、本発表が対象とする柳川方言については、(a) *ik* を含む形式は全ての活用形をとりうるのに対し *itar* を含む形式は想定される活用形のほとんどを欠き、(b) *itar* を含む形式が出現する環境は形態論的環境によって説明できる。これらから、少なくとも柳川方言においては元々異なる動詞であった *itar*-「至る」が *ik*-「行く」のパラダイムに取り込まれるという補充法が生じていると主張するとともに、それぞれの形態が出現する共時的な環境を示す。